

公的支援が必要 豪雨被害住民の声を聞く 岐阜・高山豪雨 佐々木、井上氏が現地調査

佐々木憲昭衆院議員と井上哲士参院議員は、17日の集中豪雨で河川の氾濫や土砂崩れ被害があった岐阜県高山市に27日、大須賀しずか県議(衆院岐阜1区候補)らと現地調査に入り、住民から当時の様子や要望を聞きました。若山加代子高山市議、牛丸尋幸同市議候補が案内しました。東海ブロックの北田も同行しました。



◆石浦町 土砂崩れ 住宅被害
山の麓に新しい住宅地があり、土砂がアパートの壁を突き破るなどの被害を受けました。住人はお盆で留守にしていたため難を逃れました。アパートの家主は、何度も市に要請

したがまともな対策がとられなかったと話しました。

ガレージと車が土砂に埋もれた住民は「きちんとした災害防止策をとってもらわないと安心して住めない」と話していました。

◆江名子町 土砂崩れ家屋全壊
全壊した家の主人は「背丈もの高さがあった土砂を近所の人に協力してもらって片づけたが、ガレージを片付けるのも運ぶのも自己負担。なんとか行政で支援してもらえないか」と訴えました。



◆千島町 土砂崩れ 牛舎被害
土砂で牛8頭が埋まり、妊娠中の4頭が死んだ牛舎の主人は、「朝、牛舎で世話をしていたら、斜面の鉄網がピシッ、ピシッと切れる音がした。避難するとすぐ崩れた」と話します。崩れたのは民有地だとして、行政の動きが鈍いことや上部に県の文化センターがあり、雨水が集められて流れたと訴えていました。

◆荻(すのり)川 護岸崩落(左写真)
10年前の水害以降、下流から改修を進めていましたが、護岸がえぐられた現場はこれから工事をする場所でした。集合住宅の土台近くまでえぐられ、車3台が流されました。いまは土のうが積み込まれ応急処置がされています。

◆江名古川氾濫
昔の街並みが残る大新町では川岸のお店のひざぐらいまで水につかりました。

・愛宕町・こどもの本屋は、膝の上まで水につかり、本が使えなくなり片づけに追われていました。

本屋の主人は対岸の塀や水のあふれてきた場所を示しながら、対策の不



備を訴えました。
◆ 一行は、住民の要望を元に国・県・市に働きかけていくことにしています。

佐々木憲昭議員の話
被災すると、苦勞して築き上げてきた生活と財産が一瞬にして失われます。阪神大震災以来、個人補償の実現に多くの方々の粘り強いたたかいたがりました。生活と生業を再建するために公的支援の拡充が求められます。

井上哲士議員の話
被災者の生活や営業再建のための支援の強化が急がれます。同時に危険な場所での災害防止対策や開発等で山の保水力が減少している問題、避難勧告の在り方など総合的な対策が必要と実感しました。